



# 心をひとつに 紀の国わかやま国体 軟式野球大会

みんなで盛り上げました☆



チーム優勝!



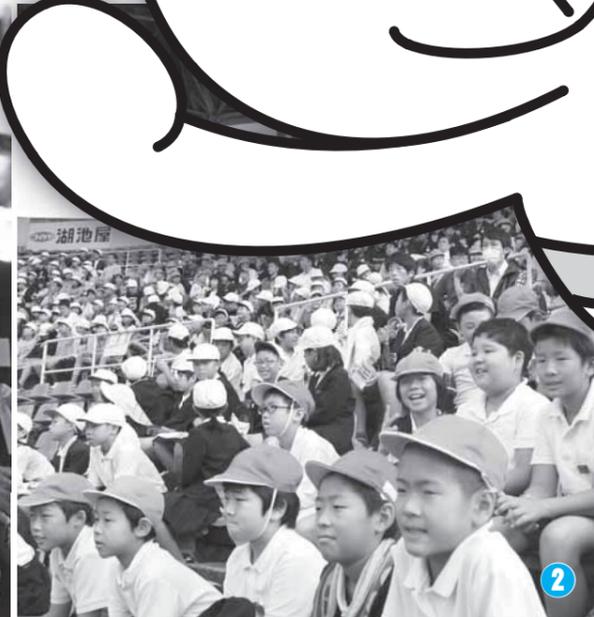
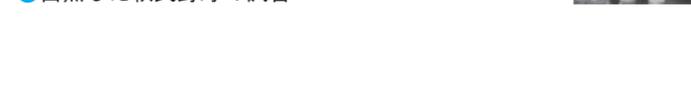
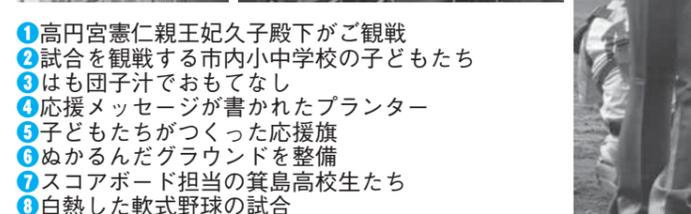
同点優勝した和歌山チームを率いたキャプテン

谷口直哉さん  
ホッケー



―国体で同点優勝し、今どんな気持ちですか?―  
プレッシャーがありました。優勝できてほっとしています。  
―地元で開催されるということで、前回出場された国体と気持ちの面で違いはありましたか?―  
地元なので、勝たなあかんっていう気持ちは強かったですね。

―優勝した要因はなんだと思いますか?―  
地元の人たちの応援が力になりました。太鼓を叩いて応援してくれたり、普段ホッケーになじみがない人もたくさん集まってくれました。そうじをしてきている地元の人にも「がんばって!」と言ってもらったりもしました。  
―応援してくれた人たちに向けてメッセージをお願いします。―  
皆さんの応援、すごくうれしかったです。優勝できて、声援に応えられたかなと思います。ありがとうございます。  
―最後にホッケーの魅力は何ですか?―  
スピード感があり、はやいゲーム展開がおもしろいです。チームプレーなので勝った時はみんなで喜びを分かち合えるのもいいですね。  
12月にも大会があるので、がんばっていきましょう。



- ① 高円宮憲仁親王妃久子殿下がご観戦
- ② 試合を観戦する市内小中学校の子どもたち
- ③ はも団子汁でおもてなし
- ④ 応援メッセージが書かれたプランター
- ⑤ 子どもたちがつくった応援旗
- ⑥ ぬかるんだグラウンドを整備
- ⑦ スコアボード担当の箕島高校生たち
- ⑧ 白熱した軟式野球の試合

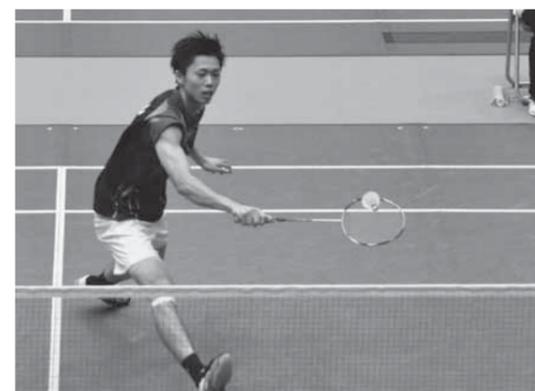


第1シングルスに出場し、1勝を挙げた

銭谷 翔さん  
バドミントン



―国体が終わって今どんな気持ちですか?―  
国体では、自分の力を100パーセントに近いかたちでパフォーマンスすることを目標に準備してきました。本番でそれに近いものを発揮でき、皆さんの前で一勝を挙げることができたので責任を果たせたのかなと思います。  
―当日はどんないきごみで試合へのおぞましたか?―  
正直、プレッシャーはとも感じていましたが、なるべく気持ちが高からないように平常心を意識していました。  
―国体ならではの雰囲気を感じますか?―  
まちをあげて歓迎してくれるので、以前は、お祭りという感覚でしたが、社会人になってからは、県代表として結果を求められているので、責任感のある大会と感ずるようになりましたね。  
―バドミントンの魅力は何ですか?―  
バドミントンの試合をテレビで見るとあまり迫力を感じませんが、実際にみるとスピード感が全然違います。



全力でプレーする銭谷選手

―最後に、応援してくれた人たちにメッセージをお願いします。―  
皆さんの声援に背中を押され、自分の力を出し切ってベストパフォーマンスをすることができました。とても感謝しています。ありがとうございます。